

報新屋新

代 623

E-mail
naotomo@
island.dti.ne.jp

トカラ塾 H.P.
<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp>

郵便振替
00160-1-11979
新屋新聞社

これは誌代と
カンパしおかけ
迷っている方の
情報です。
社員一同お待ち
しています。

「タケヤネの里」 上映会始まる

「タケヤネの里」映画

広島在住の映像作家青原としさん
の最近作の上映である。十月二十九日の
広島市内の横川シネマモカワギリに
全国各地に広がっていく。

「タケヤネの里」



内容は竹の皮を使った
細工職人の前島美江
さんを軸に展開していく。
軸は大きな翼を拓けて、伝統文化の幹
に迫っていく。イメージではなく、正確を期
して竹皮細工とその周辺を伝えている。
パンフレットの中で鎌仲ひとみさん(「ビバク
ン」世界の終わりに)等の映像作家が
が指摘しているように、「映画監督は
その人との出会いによって映画を創り
出し、気がつく」と「数珠つなぎに偶然
の出会いが次つぎと起きてくる。」
作者の青原さんはその連鎖を追及し
んでいるようだ。

新登場

「報新屋新」ネットワークにまたまた
「河原通信」が登壇された。前号
で紹介した「八百屋新聞」と共に
同封します。こゝで読者のほどまで

西上州竹皮編みかご



「タケヤネの里」パンフレット

また、パンフレットの最終頁にスタッフ紹介欄
があり、「制作誰々」「撮影誰々」「...」と続くの
だが、「監督の項目がなかった。意思を感じた。

動いたり止まったり

9/10 山口県周防大島交差センターで。丘前「破れ竹カゴの修復ワークショップ」午後「トクラ塾」南国語り大島版 講題「平島放送速記録」を読む 夜、服部家敷で「海彦・山彦交差会」山彦は藤井吉朗・堀江哲(おんしん)野菜作り(おん)氏のほか、村崎五月舟も来てくれる。海の人はいよいよ居て名前を挙げたらいい。おどろいたのは、大分県由布市に住む深瀬氏(園田マとと)主宰の友人が、この周防大島に在住していた。うみとそとウのたまご舎」をやっている小林夫婦が来てくれたことだった。世の中ホニマ狭い。深瀬氏は当社近くの三芳村(現南房州市)なのか(おん)の自然塾まで農業体験修学していたことがあり、そのときの知り合い。9/10 トラク・マンションを交流センター学芸員の高木泰伸宅の駐車場に置いてかせてもうい、新幹線が二鹿見島に

向う。なんとまあ速いこと。山陽線の大畑(おおばたけ)から乗り、徳山で新幹線に乗り換えて、鹿児島中央駅まで三時間弱。ねむっている間に着いた。まるで通勤電車と利用した気分。蒸気機関車の吐く煙りで鼻の穴を黒くしながら、二十七時間かけて東京・鹿児島を往ったり来たりしていたのが、あれはウソだったのだ。夜、市内城山町の自然食レストラン「作業」で、またまた「南国語り」(語りは社主)エストラの主宰者。菅原氏は放つて、おんとそとウの友人で、この夜、二十余人が集う。

周防大島「海彦・山彦」の交流会



Photo 菅原一徳

顔ぶれは、おんが出版をたまにしている西原祥隆(南方新社)本紙でも取った「天山哲治と「こころ」時代の作者である杉山武子。この氏とは水俣のタシエ工場前の座りこみテントの中で知り合った。四十年前。同じテントに石井礼道子さんが居た。ほかにシエフがいた。昨年度だったか、川辺町(現、南九州市)の限界集落の区長をされていた。向本常一の売れまくる本「忘れられた日本」を英訳して、昨年アメリカで上梓した。たいへんキレ者。この人の質向が一番、社主のおそれるところだった。

◇ ◇ ◇

臥蛇島山プロジェクト

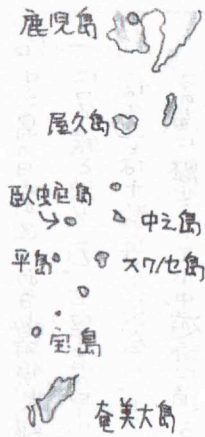
作業の集いに、こんな名前をつけた三人組が来た。ゼンヒトミートリヤウ。四十年前の一九七〇年七月二八日に無人島になった島名



作業での集いのチラシ

を封じたチームである。臥蛇島は十島村（トウラ諸島）の中ほどにあり、カツオ漁で栄えたところである。社主もこの島で暮らしたこともあり、無人島化には異議を唱えてきた。各誌に奥次を發表し続けたのであるが、ヒトリイサの哀しさで、村長（永田万蔵）以下、役場三役に取り囲まれて、オンロイイ想いをしたことがある。旧島民の会もあるのだが、それはカラオケも歌って旧交をたためることで終っている。島の再興への動きは、コッポッポもない。

島の大福帳の復刻や、部落規定の整理を社主はしてきたのだが、それはノスタルジックから御六にした仕事ではない。



「なんかしらんけど、沖から見たら臥蛇島の姿が心に刺さります。」

というメールエプロシエクトのひとりから

御岳とウエル牧場
臥蛇島灯台の跡



「これは倉心永く続けられる」と社主は受けた。「いつかの足で、裸足になぞ臥蛇島に立ってみたい」ともメールに書いてあった。

12夜十二時五十分、五リとしまが唐見島市南埠頭の岸壁を離れる。同行四人。台風十五号の影響で海上は荒れる。

羽立朝、島々に寄港するも。

トウラ塾

十一月二十六日(土)
「ナオの南国語り」

十二月十七日(土)
「東風アミアの野性動物と通い講師：浅田正彦」

(千葉県立中央博物館)

平島には寄らない。同島の港は南西方向に開いているために、折から吹いていた風を受けて港内の波浪が激しかったためである。同島の午後には、宝島を折返した定期船「ネリー」とまが上ってくること。四人はスワセ島にひとまず上陸。ナガ宅で昼食と飽走になり、五時前後に北上。ふたりは鹿見島港に逆戻り。残りふたりの大作とナオは途中の中之島で下船。

台風十五号は南の海上で円を描いて居座った。そのため、五リとしまは三便連続の欠航。

台風もなんのその

ノーテンキな顔でがごを編む。海游ワザビ。



PHOTO

橋爪大伴

1/2 中之島の目玉出区にある海游倶楽部
 一に居候を決めこむ。主宰者の早川
 信久氏とは十数年前に出会った。トカ
 ノの海に魅せられて水中游泳に慣う
 うちに、水中映像祭とこの島を企画
 することにになった。世界一深く潜る男
 のウンベルト・ペリッツァーリ(イタリア)の友人

でもある。記録更新された側のジヤック・
 マイヨールとは対称的なダイバーである。
 「ダイビングは愛であり、記録を定める
 ことではない...」と言うマイヨールに對
 して、ウンベルトは、「僕は何処で潜るの
 ではない。本能のおもむくままにそこへ
 行くのだ」と言っている。
 その発言に對して早川氏は「君達の残す
 発言だ」と認めつつも、「ウンベルトの身体
 にひとむ海のは邊伝子の想いとどうまで
 彼が行き着いたとき、先人たちが誰
 ひとりとして聞けなかった海の心の叫びを
 持ち帰り、私たちに聞かせてくれるはず
 だ」と期待している。それほどにウンベ
 ルトは海とたいむむくダイバーであるといふ。
 △ (C) ^{橋爪} _{大伴}
 △ (C) ^{橋爪} _{大伴}
 △ (C) ^{橋爪} _{大伴}
 早川氏の連日の調理の腕は頬肉が落ち
 台風のおかげで肌やつやがツルツルして
 島を離れた。

近ごろよく読まれている本

- 位 1 反国家の光区 新川明 社会評論社
 - 位 2 遙かなノートルダム 森有正 筑摩書房
 - 位 3 詐欺師の楽園 榎村孝弘 白水社
 - 位 4 二見堂 銅板画集 阿部出版
 - 位 5 竹と民衆 竹ととまに暮らす 神奈川県立 歴史博物館
 - 位 6 生のものと火を通したものの レヴィ・ストロース みずす書房
 - 位 7 佛教語大辞典 中村元 東京書籍
 - 位 8 津渡る古層の響き 楠垣尚友 みのり出版
- ◀ 鴨川シーワース書店調べ ▶



ジャック・マイヨール(左)から大きな影響
 を受けたウンベルト・ペリッツァーリ(右)
 (1991年、エルバ島で)
 『ラブ・ネア』(ペリッツァーリ著、早川信久
 監訳(株)にじゅう 1996年)
 より複製。

へ東京小出屋は

ありがたい本屋た

東京の神田神保町にある東京堂
書局の六階でお話し会がまた
れた。難渡る古層の響き出版
も記念して、版元のみずのり出版(出)
園材大島町)が主催して開かれた。
語り手はふたり。ひとりには斎藤潤
氏。日本の島々をくまなく渡り歩いて
いる人で、元、旅行誌の編集長。

PHOTO

荒川健一



現在も歩いて、書いているが、今春から肩
書きがひとつ増えた。東北芸術工科大学
の教授となった。

もうひとり著者である本社の社主兼
下働きの男。三十余人もの聞き手が果
つて来て、本人は大よろこび。話の内容
は南の島の話。平島のことしか知ら
ない社主も、相手がサポートしていた。

それにしても、この会場を提供してくれ
た東京堂とは不思議なところであ
る。音売にはならないような本の
書き手を拒まないのだから。もしか
したら、版元の生まざまに共感する

ところがあるのかもしれない。営業力
も宣伝力も極少の版元であるが、その
ていねいな本作りは定評がある。

この秋には観点を神戸から山形の島
に移した。赤字が増えないことを祈
るばかりである。

△△△

竹細の手法書 第三弾の撮影が女始まる。 10月12日~14日 鴨川

これまでに二冊が刊行されている。
「竹細工入門」と「竹組み工芸」である。
いづれも目録出版社から出ている。社主
じきじきの指南とあって、本の注文が全国
津々浦々からサツトしているとか。

オ第三弾は時代のニーズとビンカンに
した内容となるはず。九州・高千穂の
カライカゴ(背負カゴ)とモデルにした
ハンコンテースや、台所のゴミ袋、美
しく包み込んだカゴとか。その他に金
荒川一カメラマンと社主との合宿が
三泊四日をかけて行われた。



何でもトータルに神武さんのフランス・コンサートが話題に上ったかという点、会場のスキースクリンと照明とモトカラ塾で引受けながらである。

神武さんの主な演奏は、一九三〇年代のフランスの作曲集団「フランス・シムル組」の作品である。サティの精神を受け継ぎ、コクトーのバックアップのもとに、新しいフランス

「^{こたけ}神武夏子ピアノリサイタル」 於中目黒「^{アール・サール}」 10月26日

PHOTO D. HASHIZUME



音楽を作った作曲家たちである。神武さんのコトバを借りれば、「現在のポピュラー音楽の原点」だそうだ。社長の目には上質のジャズにも聴こえた。十月二十六日会場では齋藤 孝さんのフルート演奏も加わった。フルートで奏する「越天祭」は、国境の垣を超えた、伝特有の世界であった。スキースクリン制作には大久保実香と加藤芳朗が、スキクリンには大谷泰玄（マジンヤン）が、そして当日の会場設営とかたづけには舟木祐生と橋爪大作が参加した。コンサートも、その後の交流会もタノシカッタ。

報

馬淵直城氏 (68)

十月二十九日死去。十月三日幕儀カメラマンとして生涯を送る。特に東南アジアの戦場で取材した。ベトナム、カンボジア、タイが主な地。社主とは出先舎が同じであった。やすらがにぬむて下さい。

計



(二)二二年度の改訂英和辞典での「RETRAIT」の新しい邦訳が話題になっている。()

アウトサイダー
O utsider 語は Insider の存在

があつて初めて、存在理由をえる人びと

のことである。日本語

では「世捨て人」「無
用者」「隠遁者」

などの対応語がある。人生の空しく

悟り、世をばかんで出家する、あるいは、

出家する人たちがであるが、そうした人

たちが文化の担手として活躍している。

西行、鴨長明、芭蕉もそうしたひとり

と言えよう。

洋の向こうにもアウトサイダーの系が譜

がみられる。カトリック教会の修道院

は世俗を避ける隠退所であるが、

それは後述せりしながらの入所では

ない。精神世界に積極的に生きたいと願う者たちの手近な手段である。現にクエーカー教徒たちが、瞑想の時空を日常の生活のなかへ採り入れるべく、「リトリート retreat」という仕組みをつくって、定期的に行っている。



「リトリート Retiree」=「分をゆきませる」

ルビギンブルのドグマン類学の志向の中に

リトリートの思想が見え隠れしている。

そのことを教えたのは西谷修氏の

「ドグマン類学の問」(日現代思想) 第三三巻所収 二〇〇四年であった。



キリスト教において、人性と人間の生まれ

ながらに買う原罪とみなす。この償い

がたい原罪から人間が解放されること

を追い求めてきた。そのために神の子の

イエスは無原罪懐胎で生まれたとされた。クローン技術とヒビが違ふのか。科学が求める以前に、宗教からの要請が先であった。以上の前説を置いて、次にロルティ伍長の犯罪に移ろう。

一九八五年、カナダのケベック州で、完全武装の現

役陸軍伍長が議場で小銃を乱射した。

たまたま議場は休会中と無人であった。そ

れまでに三人の死者と八人の重傷者を出して

いる。事件当初は、ケベック独立をめぐる政

治テロと見られていたが、捕えられた伍長の

動機は「国家は父親の顔をしている」

だった。

伍長の実父は家族内で母親に暴力をふる

るだけでなく、子どもにも、暴力だけだけでなく

性的虐待を加えていた。その父親が出奔し

た後成人して軍隊に入る。結婚して子ども

をもうけてからは、いつかは自分の父親になるのではないかと恐れた。 ↓次頁

二番目の子どもができたとき、その恐れは臨界点を超えてしまった。キリスト教の全能を信じる人、実父は、わが子に限界を与えられないで、暴君として君臨した。そうした実父へのイメージが、独立を主張する全能のケベック政府と重なる。伍長は自らの生命を守り子を守るために父親殺しに踏みきる。国家が父親の顔をしていたのである。

あらゆる制度から人間を解放する。試みが続けられてきた。無政府であることも、そのひとつであった。その解放は、差別のない平等な個人を目ざしてきた。その個人の自由が技術の迫りや経済活動へ向けられるとき、人間を救うどころか、陥入れることが自由獲得の要件となる。ルジャンドの「ウルトラ・モダン」の社会では、

自由と無管理の区別がつかない。これは西洋流の近代Vの落し子である。

一遍は捨て聖と言われた。教団を組織することも心にはない。時宗の南祖と言われたのは、死後に弟子たちが作った教団と其にはまされたものである。一遍のほまている時代にあつては、オビニオンリーダーにはならなかった。時代の空気を存分に吸った者の送り香を後に遺した。残り香が伝えたものは、器量が大きいことは必ずしもプラスではない、ということであった。

原発事故による電力不足が日本経済を落ちこませると危惧する人がいる。また、(日本ではなくて)アメリカの格付け会社が、日本の銀行のランクを引き下げたというニュースに肩を落す人がいる。これは相撲の番付発表への関心に

トカラ塾のホームページへようこそ

も通じている。上昇することご安心を得る。「電気の供給を受けない日」「電波の飛ばない日」の曲をかせを考えてみてはどうでしょうか。

- Menu
- 南島学エッセイ
- 航跡
- 南島資料室
- 籠屋新聞
- トカラツイッター
- リンク



ようこそトカラ塾へ